4. 行動目標

行動目標	
【1】学びあい	すべての人が、生涯にわたり環境について学びあう まちの仕組みをつくり、一人ひとりの環境力を高めます。

私たちの生活様式の変化によって、地球温暖化、生物多様性の喪失、廃棄物の増大・資源の枯渇など様々な環境問題が発生し、深刻化しています。
こうした課題を解決するためには、私たちのくらしと自然とのつながりを理解し、自然、歴史、文化や産業と環境との関わりを学び、私たちの生活行動が環境にどのような影響を及ぼすかを考え、一人ひとりが社会のありかたやくらしを見直していくことが必要です。
家庭や学校、職場、地域などのあらゆる場において、生涯にわたり環境に関する知識や知恵を学びあう仕組みをつくり、一人ひとりの環境力を高め、環境学習を軸とした持続可能なまちづくりを進めていきます。

指標等

にしのみやエコ活動 *1	延べ参加率 *2 50%	*1　環境学習や環境に関する実践、体験活動のこと *2　複数の活動の参加者を含むため延べ参加率としています

※本指標は、3つの行動目標に共通する指標として設定しました。

学びあうまちの仕組みづくり

環境保全に関する知識や理解を深め、環境に関して学ぶ力を育成するため、環境学習を幼少期から生涯にわたり、それぞれのライフステージに応じて体系的に実施するなど、日常的・継続的に学びあうまちの仕組みづくりを進めます。

環境学習都市を支える人材の育成

市民・事業者などと連携し、地域における環境学習や環境保全活動の取り組みを進め、環境学習の機会の充実を図ることで、環境に配慮した行動ができる幅広い人材の育成に努めます。

環境学習を推進する場の充実

本市には、様々な形で環境について学べる場があります。
自然との関わりでは、環境学習サポートセンターや自然環境センター、北山緑化植物園、保育所や学校園のビオトープ、公園などがあります。また生活の視点では、西部総合処理センターや消費生活センター、歴史・文化の視点からは、西宮市立郷土資料館、名塩和紙学習館など、環境について学べる施設や場が充実しています。
これら自然、生活、歴史・文化の施設間の連携を進め、市民・事業者による活用を進め、まち全体が体系的な学びの場となるように事業を展開します。

環境に関する情報収集と公開

環境に関する情報の提供は、市民の環境行動や参加を促すうえで最も重要です。EWCホームページや市民自然調査ホームページ、貝類館収蔵貝類標本検索システムなどの情報発信ツールの充実、またSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等の情報ツールを活用しながら、地域活動を発信したり、知ることができる仕組みを充実させます。

コラム

西宮オリジナル！ 地球ウォッチングクラブにしのみや（略称：EWC）とは？

ちきゅうとなかよしカード（就学前幼児）

EWCエコカード（小学生）

保護者用エコカード

EWCは、単発で行ってきた環境学習・啓発事業をパッケージ化し、地域に根差した継続的な環境学習プログラムとして1992年に始まりました。当初のEWCは、まちのことや、地球のこと、自分たちと環境のことなどについて、仲間と一緒に楽しみながら取り組み、互いに協力することや理解し合うことを大切にしてほしいとの考えから、グループ単位で参加者を募集し、申し込みのあったグループの活動をサポートするといった仕組みでした。
そして、1998年からは、市内の全小学生が活動に参加できる環境を整備しようと考え、「エコカード・エコスタンプシステム」を導入しました。本システムは、環境について学んだり、地域の清掃活動に参加した時などにカードにスタンプを押してもらうことができる仕組み（一部、自分でサインを行う箇所あり）で、カードの種類は「就学前の幼児」、「小学生」、「大人（小学生の保護者）」と世代や対象に応じて３つに分かれています。小学生とその保護者が対象の「エコカード」では、学校、保育所、公民館、店舗など、市内の様々な場所や場面でスタンプを押してもらうことができ、幼児が対象の「ちきゅうとなかよしカード」では、保育園、幼稚園内での活動に対して先生方からスタンプを押してもらえる仕組みになっているため、学校・園、地域、お店のそれぞれが、このシステムを支えるサポーターとなっています。また、小学生は、エコカードに一定数のスタンプを集めるとアースレンジャー（地球を守る人）に認定されます。この認定制度には、「楽しみながら継続的にエコカード活動を行う中で、環境に配慮する習慣や考え方を身に着けてもらいたい。」という願いが込められています。その他にも、EWCの活動には、子ども向けの環境学習に関する情報やイベントを掲載した「EWCニュース」の発行や、学校・園などが環境学習プログラムを行う際のサポート、一年間の市民・事業者・行政の活動を作品として発表する「環境パネル展」の開催などを行っています。また、学校園における環境学習の充実を図るため、「環境学習サポートガイドブック」を作成しています。
西宮市では、EWCを中心とした環境学習の仕組みを通して、人と人との新しい交流を生み出し、個々の活動を地域へと広げていき、誰もが当事者として自らの意思において環境に配慮したくらしや社会活動に取り組む「持続可能なまちづくり」を目指しています。

EWC環境パネル展の会場の様子と展示作品（一部）

環境学習サポートガイドブック

コラム　環境学習と地域活動　～エココミュニティ会議～

鳴尾東エココミュニティ会議【ごみ減量化・未利用資源の活用】

野菜屑の裁断

堆肥の切り返し作業

鳴尾東エココミュニティ会議では、未利用資源を活用することでごみ減量化・CO_2削減に努めるとともに、花と緑があふれるまちづくりを目的に活動をしています。ほとんどが焼却処分されてしまう落葉や近隣小学校の給食で出る野菜切屑を裁断しコンポストに入れ、堆肥・培養土づくりをすることで焼却処分してしまう資源を有効活用し、ごみの減量化とCO_2削減を図っています。作った堆肥・培養土は、地域の公園内の花壇に活用しているほか、小学校にも提供を行い、子どもたちの環境学習にもつながっています。

平木エココミュニティ会議【食品ロス削減・地球温暖化対策】

平木エココミュニティ会議では、活動の一環として食品ロス削減のためフードドライブに取り組んでいます。2021年10月からは近隣の小学校や児童館、幼稚園に回収ボックスを設置し、家庭で長く保管されている食品を集めて福祉施設等に届けています。その他にも、小学校の夏休み期間中に環境問題や省エネについて自分たちにできることを考えて取り組んでもらう「エコ活動ミッションビンゴ」を行っています。ビンゴの中には食品ロス削減や節電、エコバックの持参などが盛り込まれており、ビンゴができあがる頃には自分たちができるエコ活動が習慣になるような取り組みとなっています。また、地球温暖化対策、環境学習の授業の一環として子どもたちとともに「グリーンカーテン」を小学校に設置する取り組みも行っています。

フードドライブ回収ボックス

校舎に設置したグリーンカーテン

エココミュニティ会議とは・・・
より快適な地域環境を次世代へ引き継いでいくために、市民・事業者・行政などのあらゆる主体が同じテーブルに着き、協力して話し合い、地域に根差した活動を行っています。2006 年に学文地区で第 1 号のエココミュニティ会議が発足して以降、現在、市内 21 地域で発足しています。

行動目標

【2】参画・協働	市民・事業者・行政などの各主体、各世代の自律と協働、参画により地域力を高め、環境活動を進めます。

本市では、市民・事業者・行政の参画・協働により環境施策を推進しています。地域においても、市内の環境美化・保健衛生を推進する「西宮市環境衛生協議会」や、「環境」を切り口に地域づくりについて話し合い、活動する場である「エココミュニティ会議」などが設置・展開されています。
さらに、各主体の連携にとどまらず、地域での課題を共有し、統合的に解決していくためには、様々な世代とともに、環境施策を推進する取り組みを継続的に進めることが大切です。
これまでの取り組みを充実させ、各主体・世代が参画・協働できる仕組みを構築し、その中で、互いの立場を考慮し、人と人との絆を育むことで、地域で生じる様々な課題解決につながることを目指します。

各主体の特性に応じた自律した活動を推進

全市的また各地域において環境施策を推進するにあたり、市民・事業者・行政などの各主体に応じた役割を明確にするとともに、責務を果たすための自律した活動を推進します。

各主体・各世代の参画と協働の推進

市民・事業者・行政などの各主体、また子どもから大人までが日々の生活の中で活動に参画できる「仕組みづくり」を行います。
また、昨今の解決の糸口が見えにくい複合的な環境問題に対しては、単に個別に活動しているだけでは、対処が難しくなってきています。過去から現在、将来を見据えて、地域における課題の共有化を図り、互いに相手の価値観や立場への理解を深めながら協働の取り組みを促進する「場づくり」を進めます。

コラム　地域の学習の場としての巡回相談会

西宮市環境衛生協議会では、各地区環境衛生協議会向けに環境衛生事業の一つとして、巡回相談会を実施しています。相談会のテーマは３種類あり、健康管理等をテーマとした「健康巡回相談会」、ごみの分別・処理等をテーマとした「ごみ巡回相談会」、身近な害虫の駆除や対策等をテーマとした「害虫巡回相談会」です。それぞれ各地区環境衛生協議会と市の担当者が相互に連携し実施しています。また、この事業は、各地区の役員のみならず、一般の方にも参加を呼びかけ、地区の学習の場として利用されています。

巡回相談会の様子

※西宮市環境衛生協議会とは
1957年に「蚊や蠅のいない住みよいまちづくり」を目的として作られました。
現在は、市内の小学校を基準に38地区の地区環境衛生協議会で構成されています。

コラム 連携・協働の仕組み：パートナーシッププログラム

「環境学習都市にしのみや・パートナーシッププログラム」は、市民団体・事業者・NPOなどとの参画と協働による環境学習・保全活動を促進する仕組み（認定制度）です。
本プログラムに認定された取り組みの中には、外来生物が及ぼす問題を取り上げているものがあります。具体的な活動としては、在来生物の保全のために地域住民とともに実施する定期的な駆除活動や、現状の周知のために地元の中学生や企業を対象にした観察会の実施などがあります。こうした地域に即した参画・協働の取り組みが西宮市の各種施策の推進を担っています。

(※)オオキンケイギク：特定外来生物
北米原産の外来植物です。繁殖力が強く、在来の生態系に影響を及ぼすことから、人為的に拡散させる原因となる行為(栽培や運搬等)は原則禁止されています。

オオキンケイギク(※)の花や種子の駆除活動

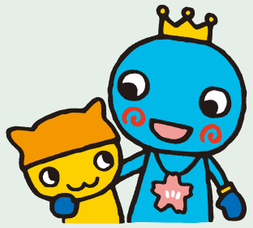
地元の中学生などを対象とした観察会

コラム 市民・事業者アンケートを通して見えてきたこと

	小学生アンケート	市民アンケート		事業者アンケート
問	普段の生活の中で環境を良くするために今後なるべくしたいこと（回答上位項目）	日常生活で環境への配慮について今後なるべくしたいこと（回答上位項目）		事業者の地域の環境活動に関する考え方
回答	●環境問題について家族と話し合う（33％） ●地域で自然観察会などの環境保全活動やイベントに参加する（29％）	（2017年度） ●環境保全のための寄付に参加する（33％） ●地域で自然観察会などの環境保全活動やイベントに参加する（42％） ●日用品において、エコマーク、グリーンマークなどの環境に配慮した製品を購入する（29％）	（2023年度） ●環境保全のための寄付に参加する（50％） ●地域で、講演会や自然観察会などの環境保全活動やイベントに参加する（44％） ●日用品において、エコマーク、グリーンマークなど環境に配慮した製品を購入する（39％）	●行政からの働きかけがあれば可能な範囲で参加したい（60％） ●周辺地域の市民または団体と協力して環境保全に貢献したい（36％）

「アンケートの結果、市民・事業者ともに、環境への関心がある割合が高くなっていて、何らかの行動につなげたいという考えを持っているということがわかったよ。」

「４割以上の市民が『環境保全のための寄付や活動、イベントに参加したい』、また、４割近くの事業者が『周辺地域の市民または団体と協力して環境保全に貢献したい』と回答しているよ。今後、様々な主体が環境活動に参加できるような仕組みや、活動につながる機会を作っていく工夫が必要だね。」



※アンケート実施概要についてはP.11を参照

コラム 西宮の環境・地域について考えるワークショップ

本計画の中間改定にあたり、様々な主体や世代にリラックスした雰囲気で交流してもらいながら、西宮の環境や地域活動について自由な意見交換をしてもらい、今後の参考にすることを目的に「西宮の環境・地域について考えるワークショップ」を2023年8月に開催しました。
当日は、地域で環境活動を実践されているエココミュニティ会議の皆さんや大学生の方に参加してもらい、参加者同士で、事前にお伝えしていた「自慢したい西宮の環境」、「地域活動への若者の参加を高める方法」、「ゼロカーボンに向けて、私たちにできること」の３つのテーマについて、活発な意見交換を行った後、グループごとに発表してもらいました。参加者からは、「（西宮市は）地域と行政のつながりが強い。」「学校での行事として地域活動への参加を募り、活動から地域に関心を持ってもらうと良いのでは。」「宅配ボックスを設置しやすくし、再配達のエネルギーを削減する。」「”ゼロカーボン”等の難しい言葉が多く、意味を知らない人が多い」など、アンケートでは得ることが難しい具体的な提案や中間改定の参考になる意見が多く出ました。

※ワークショップの詳細は、本計画資料編P.24～P.27参照

ワークショップの様子

行動目標

【3】国際交流・貢献

国際的視野をもち、世界の人々と協力して、
より良い地球環境を未来に残すことに貢献します。

現在、環境問題は地球規模へと広がりをみせており、身近な問題から地球全体の環境を考え、対処していくためには、国際的な視点が欠かせません。そのため、食料、衣料、エネルギー等、海外の様々な資源を利用する中で生じる国際的な環境問題に対しても、自らのこととして意識をすることが大切です。本市では、学びあいと参画・協働による地域活動を展開する中で、国際的な視点が育まれるよう世界の人々とつながる場を活用した多様な取り組みを推進します。

世界の国々との環境を通じた協力や交流の推進

西宮市は海外の４都市と姉妹・友好都市提携を結び、市民レベルでの交流を深めています。また、市内には教育施設も多く、大学をはじめとした各教育機関において留学生と交流できる機会があります。環境という切り口からも多様な価値観について理解を深められるよう、交流の促進や海外からの視察受け入れを行い、環境学習を通じた国際交流・貢献を推進します。

世界の人々への環境情報の発信

市民・事業者・行政との参画と協働による環境に対しての取り組みの充実を図る中で、環境情報について広く発信していく役割を果たしていけるよう、環境活動に関する情報ネットワークのすそ野を広げる取り組みを進めます。

コラム　環境パネル展で国際交流!?

EWC環境パネル展は、生きもの、自然、ごみ減量など、身近なまちのことから平和、福祉、国際、防災、産業など、市民・事業者・行政の持続可能な社会に向けた取り組みを発表する催しです。市内の小学生などの作品も学校を通して数多く出展され、毎年2,000名以上が参加しています。
また、近年は、西宮市の姉妹・友好都市との交流に関する展示なども加わり、広域的な視点を育む機会にもなっています。

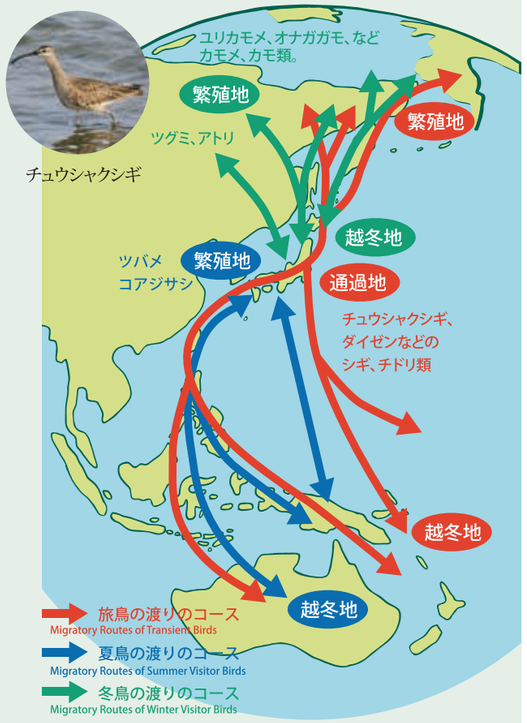
環境パネル展の様子

コラム　渡り鳥は、なぜ西宮に来るの？

西宮市には、阪神間で数少ない干潟や自然海浜を有する甲子園浜、御前浜・香櫨園浜があり、春にはシギ・チドリ類、冬にはカモメ・カモ類などの多くの渡り鳥で賑わいます。
特に旅鳥であるシギ・チドリ類は、繁殖活動を行うために東南アジアやオーストラリアなどの南国からシベリア・アラスカへ向かう渡りの途中で、餌場として立ち寄ります。干潟に生息する底生生物（アサリやゴカイ、カニ等）は、これら渡り鳥の命をつなぐ貴重な餌となっています。戦後、日本では埋め立てや護岸工事で干潟の面積が減少し、渡来する渡り鳥の数も少なくなっています。西宮市の沿岸部の干潟は、地球規模で移動する渡り鳥を保護するために重要な役割を担っています。

干潟で生き物観察をしている様子（甲子園浜）

渡り鳥と渡りのルート



コラム　西宮市・バーリントン市の共同声明とは

西宮市と米国バーモント州バーリントン市は、それぞれが協力して持続可能な地域づくりに向けた取り組みを進めることを表明し、2003年10月に共同声明調印式を行いました。その後10周年記念シンポジウムにおいて、10年前に行われた両市の共同声明を継承し、今後、さらに両市が持続可能な社会に向けた取り組みを発展させていくことを約束した共同声明を調印しました。

コンポストやリサイクルについて学んでいる様子

西宮市の「エココミュニティ会議」の取り組みのモデルは、バーリントン市の「レガシープログラム」であり、また、バーリントン市の小学校で行われている「レガシー・カード」は、西宮市の「エコカードシステム」をモデルに導入されたものです。西宮市とバーリントン市は、このようにお互いに連携しながら持続可能な社会に向けた取り組みを進めています。

5. あらゆる世代が参加できる環境学習の推進

環境基本計画を体系的に推進していくため、４つの環境目標と３つの行動目標を設定していますが、各目標は相互に関連し合う部分も多く、総合的に捉える視点や考え方も必要になります。そこで、本市では、身近なくらしと環境との関わり合いへの気づきを促し、広い視点で環境問題を捉えられる人材の育成やあらゆる世代が環境活動に取り組めるよう様々な主体と連携しながら環境学習の機会や場の創出に取り組んでいます。

環境学習の現状と課題

本市の環境学習事業の特徴は、「地球ウォッチングクラブ事業」を中心に、小学生を中心とした子どもたちの環境に関する学びや活動を、学校や地域の身近な大人たちがサポートし、お互いの環境意識を高め（学びあい）、環境へ配慮した考え方や行動を地域に定着させようとするところにあります。こうした次世代の育成を地域ぐるみで行う仕組みを学校教育と連携しながら全市的に構築し、長年に渡って継続しているような事例は他に例がなく、全国的にも高い評価を受けています。しかしながら、現状の仕組みは、小学生とその周囲の大人たちを主な対象としている点から、中高生以上や大人などに環境学習や環境保全活動の機会を提供するという面では課題があります。

【環境学習の取り組みの様子】

グリーンカーテン用の苗の植え付け

大池での生き物・自然観察会

地域の人に教わるしめ縄作り

松ぼっくりや木の枝を使ったエコクラフト

農業体験会での作物の育て方の説明

地域のイベントでのエコクイズ

廃材を活用したワークショップ

魚の飼い方教室

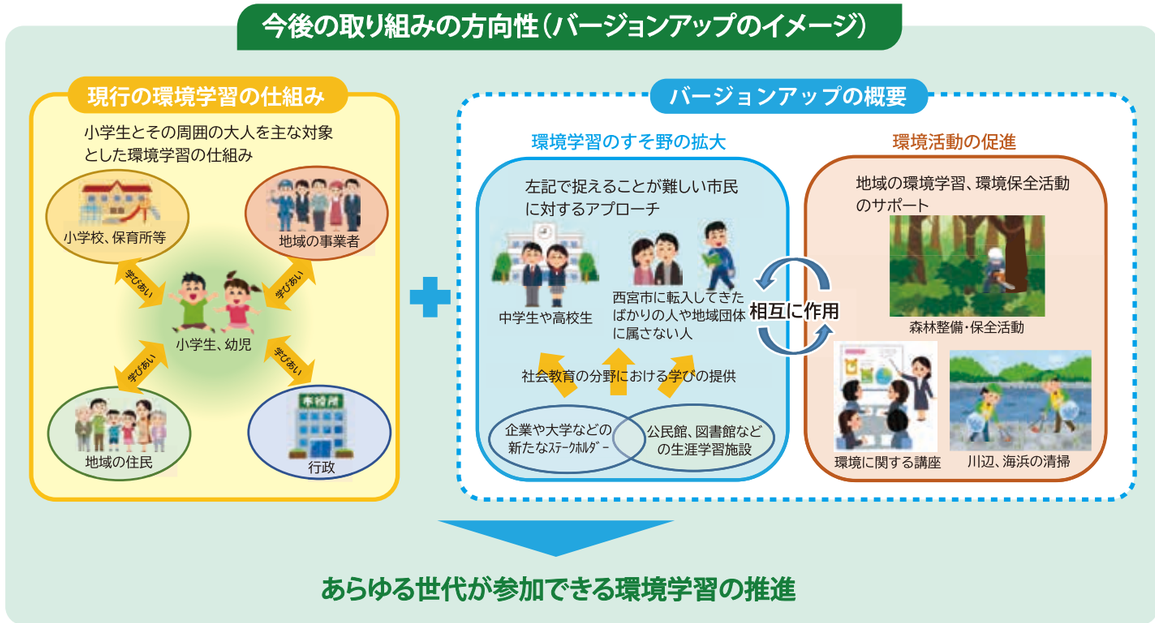
生き物とのふれあい体験

今後の取り組みの方向性

現行の環境学習の仕組みの中で十分に捉えることが難しい世代や対象を捉えていくためには、新たな環境学習の機会を創出していくとともに、それらの情報を広く周知していくことが重要です。そのためには、生涯学習の観点から展開されている各種事業や活動との連携や、新たなステークホルダーとの協働の促進など、環境学習の仕組みをさらに発展させていく必要があります。

また、家庭に向けた取り組みは、同居する他の世代にも影響を与え、幅広い世代や対象を捉えていくことにつながることから、あらゆる世代が参加できる仕組みを構築していくにあたっては、重要になるものと考えます。

これらのことを踏まえて、これまで長年に渡って実施してきた環境学習の取り組みに加えて、次のような取り組みを展開していきます。



現行の仕組みに加えて実施する取り組み（バージョンアップの概要）

❶中高生に向けた環境学習プログラムの開発

中学生や高校生に適した環境に関する学習プログラムを開発し、希望する中学校等へ提供します。

❷家庭内で実践するエコ活動の実施

環境へ配慮した行動が家庭内で実践されていくような仕組みを検討、実施します。

❸事業者と協定締結などによる環境学習・環境保全活動の推進

事業者や大学などと協定を締結するなど、環境学習や環境保全活動の機会、場の創出を推進します。

❹生涯学習事業との連携の強化

公民館や図書館を活用することなどにより、生涯学習事業との連携を強化し、学びの機会や場を拡げます。

❺情報発信の強化

より幅広い世代（対象）への情報を届けるため、有効な情報発信の手法等について検討し、実施します。